



▲倉敷にて開催された中川ひろたかさんと加藤休ミさんのトーク&ライブ。

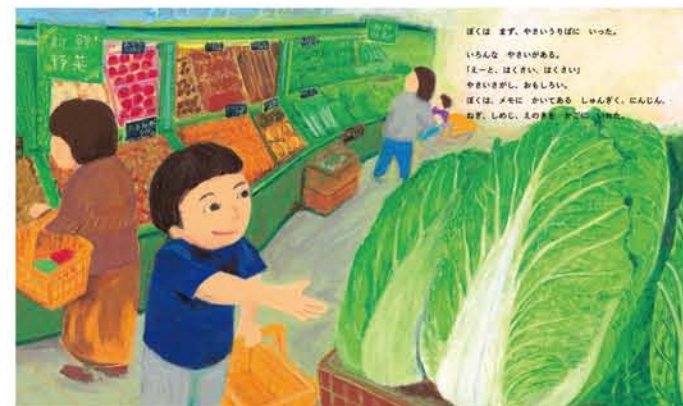
会社を立ち上げる前はイベントを企画したり講演活動を行っていましたが、編集経験はまったくなかったという霜鳥さん。そこで編集に関してはフリーの編集者をお願いし、イラストレーターとの選定や本の流通を行うのに重要な「取次の手配に日夜奔走した」といいます。そして人気絵本作家の中川ひろたかさんが文章を、クレヨン画家である加藤休ミさんが絵を描いて、できあがったのが同社の刊行第1弾となる『いのちのたべもの』。買物をする男の子と母親の会話を通して「生きることは食べることをわかりやすく伝える絵本が完成しました。色鮮やかになんじんが目を引く表紙は加藤さんが何枚か描いてくれたものの中から選びましたが、「にんじんは子どもがキラリな食べ物の一つだからあま

初めての本作りの楽しさと難しさ

「青森県で森のイスキアを主宰していた福祉活動家の佐藤初女さんが作るおむすびを、いつか食べてみたいと思ったんです。おむすびという字は、私の師匠である谷川恵さんの出版社へある含めからいただきました」

「裏返し(裏表紙をめくったページの)田んぼの絵は、農家さんからいただいた写真を岡本さんに送って描いてもらいました。この空を表現するために何回色直ししたか。思った通りの秋の空に印刷できなくて、本当に大変でしたと印刷所も苦労したそう。

「でも私はこれが一番いいと思って。にんじんは土から栄養をもらって立っているじゃないですか? インパクトがあつてよい表紙だと思っています」



▲「いのちのたべもの」より

『いのちのたべもの』
2017年4月発行

スーパーで買い物をする男の子と母親の会話を通して、毎日口にする「食べ物」の大切さに触れられる絵本。ダイナミックなワレヨン画に引き込まれます。

「裏返し(裏表紙をめくったページの)田んぼの絵は、農家さんからいただいた写真を岡本さんに送って描いてもらいました。この空を表現するために何回色直ししたか。思った通りの秋の空に印刷できなくて、本当に大変でしたと印刷所も苦労したそう。

「扱いが面倒だなあつて常々思っています。だから「シール」にしてください」とお願いしました

その言葉通りにへおむすび舎の絵本には帯の代わりにおむすび型の可愛いシールが貼られています。文章はほぼひらがなで書かれていますが、対象年齢はあえて決めていません。

「子どもたちにももちろん読んで欲しいです。でも一番読んで欲しいのはお母さんなんです。だって食事を作る

よい本をいつまでも愛情込めて届けたい

フリモARを使って右の画像にスマホをかざすと「ごはんのにおい」の読み聞かせ動画が見れます!



▲「ごはんのにおい」より

「おむすび舎」
代表 霜鳥英梨さん

2016年燕市にて食育絵本出版社(おむすび舎)を設立。食育指導士として絵本を教科書に「食の大切さ」を伝えています。

「子どもたちに食育指導をする中で、わかりやすく伝えるために試行錯誤をしてきました。人形劇やお芝居なども行ってきたのですが、絵本を取り入れることを思いついたんです」

「子どもたちに食育指導をする中で、わかりやすく伝えるために試行錯誤をしてきました。人形劇やお芝居なども行ってきたのですが、絵本を取り入れることを思いついたんです」

「食育指導士を経て出版社を設立」

「絵本はこころの食べ物」

小さな出版社

おむすび舎

実際に試してみると子どもたちが身を乗り出すように聞き入り、教えた内容もしっかり記憶されていたことで絵本が持つ力に驚きと手ごたえを感じたそう。元々絵本が好きで読み聞かせ活動をしてきたこともあり、食育をテーマとした絵本の出版社を立ち上げることを決意しました。

「出版社に企画を持ち込んでみたら?とアドバイスもされましたが、自分の伝えたいことがさまざまな制約で伝えられないかもしれない。それだと意味がないと思ったんです」と詩人谷川俊太郎さんを義理の父に持ち「一人出版社を主宰する谷川恵さんのアドバイスを受け、ようやく立ち上げた出版社をへおむすび舎と命名。社名の由来は食べ物に関するものを、それも検索しやすいように「あ行」がよいと思ったそう。

「いのちのたべもの」「ごはんのにおい」をどちらか1冊、2名様プレゼント!

希望の絵本と巻頭特集の感想、名前、住所を明記の上、下記の宛先へお送りください。

〒955-0092 三上市須頃3-31 生活情報新聞社 まるごと県央! 「巻頭特集プレゼント」係

E-mail: kenoh@s-joho.com

「でもまだ構想段階。一日に何千冊も出版されている中で、本屋さんに置いても手に取ってもらえず版元に返される本っていうはいあるんです。でも10年後誰かに手渡したときに、その人にとっては「新刊」なんです。ずっとそうやってよい本を長く売り続けたい、手渡したいと思うんです」

「たべもの」とは「たべもの」と「ごはん」は「くた」に「ん」の「ごころ」の「たべもの」。やさしい文章と読む側にもまで匂いが届きそうな生きいきとした絵で、食の大切さを教えてくれるへおむすび舎の絵本。読み聞かせを通して、食べることの意味や命の尊さを、ぜひ家族で一度考えてみませんか?

霜鳥英梨さんと食べる!

「いのちのたべもの」ランチバイキング会

絵本版売コーナー有

霜鳥英梨さんによる絵本の読み聞かせと、(明治屋)による県央産の採れたて野菜を使用したランチバイキング会を開催します。

日時 5/27(日) 10:00~
※受付開始9:30~、終了予定13:00

会場 明治屋(燕市秋葉町4-9-60)

定員 親子20組40名
※定員を上回った場合は抽選になります。

料金 1組 1,000円 締切 5/15(火)

参加資格 0才~小学生までの子どもがいる親子
※大人は2名まで。参加する子どもが3名以上の場合、別途ご連絡ください。

申込 [Mail] kenoh@s-joho.com
[はがき] 〒955-0092 三上市須頃3-31 生活情報新聞社 まるごと県央! 「いのちのたべもの」係
※参加する家族の名前、年齢、連絡先を明記してください。



▶真実なまなざしで色味を確かめる印刷所の担当者。仕上りをチェック。



▲色の調節に苦労した「ごはんのにおい」の「裏返し」。刈り取った後の稲穂の香りが伝わりそうです。

「ごはんのにおい」
2017年9月発行

朝ごはんを食べる重要性や、ごはんの魅力について興味を高めてくれます。炊きたてごはんのにおいや季節の空気感が伝わるようなイラストは必見!